

INFORMATION



《NEWS》

■第13回遺跡発表会を開催しました

7月18日(土)に佐倉市中央公民館で開催した遺跡発表会は、暑い中300名を超える来場者がありました。今回は明治大学名誉教授大塚初重先生を講師に迎え、「印旛沼周辺における古墳文化の展開」という題名で講演をしていただきました。

なお、当日来場できなかった方も11月29日(日)まで文化財センター展示室において出土品を展示しておりますので是非ご覧ください。



大塚初重先生による講演

《速報》

■富里市駒詰遺跡(第1地点)出土 印旛地域最古級の「須恵器蓋」



出土した古式須恵器蓋

現在発掘調査が行われている富里市駒詰遺跡で古墳時代中期の小型の竪穴住居跡(一辺2.5m)から、古式須恵器の蓋が完形で出土しました(写真)。蓋は、高杯にかぶせてセットになるもので、小さなつまみが付けられています。大きさは11cm(口径)、高さは4.5cmほどの小ぶりなものです。外面には自然釉(窯の中で焼くときに燃料の灰が降りかかって釉薬のようなもの)が全体に付着しています。

5世紀半ば頃のものと考えられますが、形に特徴があって、

どこの窯で焼かれたものか、いつ作られたものかなど、今後の詳しい調査が必要です。5世紀代の須恵器窯は全国的に見ても限られており、近畿地方(陶器窯跡群)か東海地方(猿投窯・湖西窯)なのか、それとも他の地域、あるいは朝鮮半島の製品である可能性も考えられるかもしれません。いずれにしても、印旛地域はもとより、県内規模でみてかなり古いものと言えるでしょう。

今後の調査によって、高崎川流域では調査例の少ない5世紀代の様相が明らかになるものと期待されます。続報をお待ちください。

《発掘中の遺跡》

がんばってます!

11月以降の予定

- 《成田市》松崎名代遺跡(縄文時代、奈良・平安時代) 台方宮代遺跡(2)(古墳~奈良・平安時代)
- 《富里市》駒詰遺跡(第2地点)(縄文時代、古墳~奈良・平安時代、近世)

《室内作業》

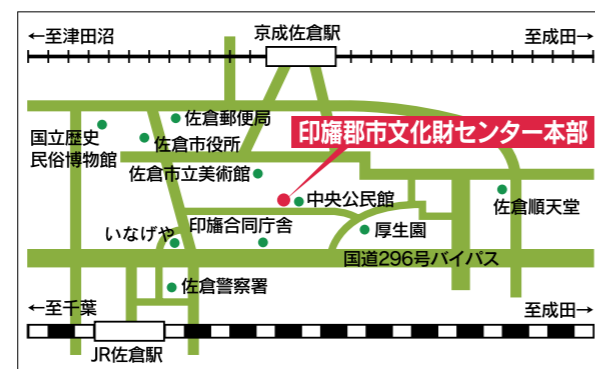
こつちも やってます!

《本部統合事務所》

- 佐倉市錦木町198-3 TEL. 043-484-0133
- 船形手黒遺跡(成田市 弥生~奈良・平安時代)
 - 台方宮代遺跡(成田市 古墳時代)
 - キサキ遺跡4地点(成田市 旧石器時代、縄文時代、古墳時代)
 - 下福田城跡(成田市 中世)
 - 城次郎丸遺跡(佐倉市 縄文・弥生時代、中世)
 - 馬場遺跡(第5地点)(印西市 縄文時代~近世)
 - 駒形北遺跡(第3地点)(印西市 縄文時代~中世)

《おしらせ》

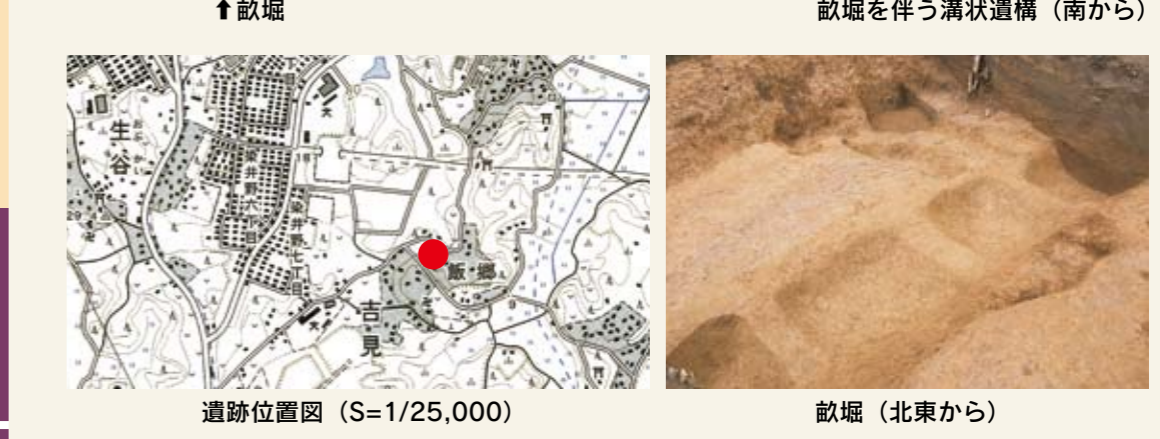
※上記の発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。詳細は本部へお問い合わせを!



平成21年11月20日 千葉県佐倉市錦木町198-3 TEL. 043(484)0126(代) FAX 043(485)9871 http://www.inba.or.jp (ホームページ) http://www.inba.or.jp (Eメール)



さくらしよしみじょうあと 佐倉市吉見城跡(第2次)



京成臼井駅から南東に約2.5km、鹿島川と手繰川に挟まれた標高26~30mの台地上に位置する吉見城跡の発掘調査を実施しました。調査区域は、現道に沿った東西に細長い範囲ですが、吉見城に関連した建物の跡や井戸、土坑、溝状遺構などが検出されています。特に、調査区の西端で検出された溝状遺構は、上面の幅約4m、底面の幅約1.5m、深さ約1mというもので、台地の下から吉見城へと南北に延びていました。この溝状遺構の底面には幅1×0.5m、深さ20~30cm程度の方形の掘り込みが等間隔で続いている状況が確認できました。

中世の山城や平山城では、丘陵の地形に合わせ、空堀、土塁、虎口(出入口)などの施設を築きます。特に空堀は多用され、多くの工夫を凝らしています。たとえば、敵兵が空堀を通路として容易に登ってこられないよう、堀底に敵状の障害物を築いたものがあります。このようなものを敵堀といいます。今回の調査で検出された溝状遺構も規模としては小規模ですが、この敵堀の一種と考えられます。周辺には中世を通じて臼井氏、16世紀以降の臼井氏滅亡後は、原氏の居城として使われた臼井城跡が所在します。また、本遺跡の北側には、臼井氏に隣接して関係する屋敷跡と考えられる臼井屋敷跡遺跡が隣接しています。吉見城は詳細な調査が行われておらず、資料も少ないため、規模や使用された時期、そして誰の居城であったのか、その全容は明らかになっていません。今回の調査結果も含め、臼井城や臼井屋敷跡との関連等、研究を進めることにより、詳細が明らかになっていくことと思います。

成田市 キサキ遺跡 4地点



5号住居跡出土大型壺



13号住居跡出土高坏



14号住居跡出土甕



6号住居跡出土大型壺と
出土状況



遺跡位置図 (S=1/25,000)

キサキ遺跡4地点は、成田市の北東部、旧大栄町である一坪田字キサキに所在する遺跡です。利根川に注ぐ大須賀川の西岸、標高41mの台地上に立地しています。

今回の調査は、平成20年6月から12月にかけて行なわれ、調査の結果、今から約1700年前にあたる古墳時代前期の竪穴住居跡23軒を中心に、旧石器時代の石器がまとまって出土した石器集中地点や、狩猟の際、獲物を捕獲するために用いたとされる縄文時代の^{おとしあな}陥穴4基、土坑2基などが見つかりました。

この古墳時代前期の竪穴住居跡からは、大型の壺や、甕・高坏・器台・土玉などが多く出土しました。特に写真(右)の大型壺は、弥生時代後期の様相を残し、最大部分で直径65.5cm、高さ約50cm以上もあり、出土遺物の中でも最大のもので、形も通常とは異なり、似た形の大型壺が八千代市権現後遺跡から出土していますが最大径40cmと小さく、今回出土した資料は「超大型壺」といえます。この他にも、祭祀的な遺物や東海地域の特徴をもった土器が数点出土して

おり、この遺跡と東海地域がどのような関係であったのかを考える良い資料といえます。

これまでキサキ遺跡の調査は、過去に3度の調査が行なわれ、縄文時代の遺構・遺物がみつかっていましたが、古墳時代前期の遺構は確認されていませんでした。また、周辺からも同じ時期の集落は見つかっておらず、今回の調査は、この地域の弥生時代から古墳時代への移り変わりを知る上で、大変重要な成果であるといえるでしょう。

背景：遺跡東側部分
(空撮)